

## 学生が企画する「レポートの書き方講座」の意義

向井将馬<sup>1)</sup>、新免 歩<sup>1)</sup>、広瀬壮大<sup>1)</sup>、本田剛士<sup>1)</sup>、下村宗央<sup>2)</sup>、畑中唯菜<sup>2)</sup>、  
片山裕之<sup>3)</sup>、亀岡由佳<sup>4)</sup>、近藤 薫<sup>4)</sup>、上田勇仁<sup>5)</sup>、吉田 博<sup>5)</sup>

1) 徳島大学理工学部 2) 徳島大学総合科学部 3) 徳島大学工学部  
4) 徳島大学附属図書館 5) 徳島大学総合教育センター

### 1. はじめに

大学における初年次教育の実施率は、2014 年度現在で 96.1%であり（文部科学省 2016）、近年急速に広がってきている。初年次教育は、大学への学習の転換を図ることを目的に、ラーニングスキルの育成や学習態度の醸成、学習への動機づけなどの効果が期待されている（山田 2013）。徳島大学においても、1年次全員が受講する初年次教育プログラム「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」を実施している（徳島大学 2017）。一方、ピア・サポート活動として、学生による学習支援を行う取り組みが実施されており、特に初年次学生の学習支援として、一定の成果を上げている（本田ほか 2016；下村ほか 2015）。

本研究は、学生が企画する「レポートの書き方講座」の成果や課題を整理し、学生による企画の意義を明らかにすることで、今後の初年次学生への学習支援や、徳島大学における初年次教育「SIH 道場」への有効的な示唆を与えるものである。

### 2. 学びサポート企画部

学びサポート企画部は、「大学生の日々の学習における躓きに対して、学習支援を行うとともに、学習をするために必要な基本知識・技能を習得する場や機会を創ることで、大学生の学習スタイルの向上、改善を行う」という理念のもと、活動している徳島大学のサポート系サークルである。学生 7 名と助言指導に当たる図書館職員 2 名、教員 2 名で構成されている（2017 年 10 月現在）。大学図書館の支援を受けながら、大学生を対象に、学習相談や大学での学習や研究に対する動機づけを目的としたイベントを企画・実施している（学びサポート企画部 2017）。

### 3. レポートの書き方講座

レポートの書き方講座は新入生がレポート作成に関する基本事項を習得し、論理的なレポートを作成できるようになることを目的に実施した。4 月 25 日、26 日の二日間に渡り、徳島大学教員の協力を得て文系・理系それぞれのレポートの書き方講座を開催し、延べ 242 人の学生が受講した（表 1；図 1）。

### 4. 参加者アンケート

レポートの書き方講座では、参加者を対象にアンケートを実施し、226 名から回答を得た。図 2 は 5 件法の設問の回答結果である。「5. 本企画は満足できるものでしたか」という設問では、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」という肯定的な回答が 87%であり、本企画の満足度が高いことが分かる。また、「1. レポートを書くときに注意すべき点を理解することができましたか」、「3. 本企画は、今後の大学生活に活かすことができると思いますか」という設問では、90%以上の学生が肯定的な回答をしている。

記述式の設問「本企画に参加して学ぶことが出来た点、身に付いたと思うことを具体的にお書きください」では、178 名から回答が得られた。このうち、「レポートのルール」、「レポートの構成」、「レポートを作成する際の注意点」などのレポート作成の基本的な知識やスキルを学ぶことができたという意見が多く挙げられていた。その他に、「レポートという言葉に身構えてしまいがちだったが、この企画でレポートの書き方を学ぶことができたので不安を解消することができた」や「レポート全体の構成と注意点を知ることのできるレポート提出に役立てることができると思

う。」という意見も挙げられた。

以上の結果より本企画は、初年次学生のレポートの書き方に関する基本的な知識やスキルの習得に非常に役立っていることがわかる。また、レポート作成の経験が無い初年次学生がこのような企画に参加することで、大学での学習に対する不安を和らげ、学習意欲向上にも影響していることが伺える。

### 5. まとめ

以上の考察より、レポートの書き方講座は、学生のニーズに対応し、初年次学生の学習における悩みや不安を解消することにおいて、貢献していると考えられる。また、今回のレポートの書き方講座は参加者数が226人であることから、徳島大学の正課外における学習支援に大きなインパクトを与えていると言える。一方、今回のレポートの書き方講座では、授業のために途中から参加した学生が少なからずいた。アンケートでも、「講義をすべて聞くことが出来なかった」、「時間をもっと長くしてほしい」などの意見が挙げられ、授業時間の把握や企画の実施時間を検討することも重要である。学生による企画の意義は、学生目線でイベントを企画できることである。学生が持つ悩みや不安は教員よりも学生のほうが理解しやすく、学生が開催することで気軽に参加しやすいという点が考えられる。

最後に、徳島大学における初年次教育プログラム「SIH道場」では、学習目標の1つに文章力の育成が掲げられており、レポートの書き方やライティングの指導などが行われている。このようなラーニングスキルの習得については、正課教育と正課外での学習支援が有機的に連携していくこ

とで、より効果を高めることができると考える。そのためにも、初年次教育を担当する教職員とピア・サポートを行う学生との対話は必要になる。今後は、SIH道場のプログラム設計において、このような正課外での学習支援を補助的に位置づけることができれば、本学の初年次教育も新しい段階に進むことができるのではないだろうか。

表1 レポートの書き方講座の概要

| 開催日   | 分野 | 講師   | 場所            | 参加者  |
|-------|----|------|---------------|------|
| 4月25日 | 文系 | 井戸慶治 | 図書館<br>多目的ホール | 72名  |
| 4月26日 | 理系 | 古屋 玲 | けやき<br>ホール    | 170名 |



図1 レポートの書き方講座の様子

### 参考文献

- 1) 文部科学省 (2016) 「平成26年度の大学における教育内容等の改革状況について (概要)」
- 2) 山田礼子 (2013) 「日本における初年次教育の動向」『初年次教育の現状と未来』11-27.
- 3) 徳島大学 (2017) 「平成28年度徳島大学大学教育再生加速プログラム事業報告書」.
- 4) 本田剛士ほか (2016) 「徳島大学の教育・学生の学びに与える Study Support Space のインパクト」, 平成28年度大学教育カンファレンス in 徳島発表抄録集, 10-11.
- 5) 下村宗央ほか (2016) 「学生と図書館職員の協働による学習支援の実績と将来展望」, 平成27年度大学教育カンファレンス in 徳島発表抄録集, 26-27.
- 6) 学びサポート企画部 (2017) 「学びサポート企画部紹介」 (<http://www.tokushima-u.ac.jp/cue/sca/team/sss/>) (2017年10月30日)

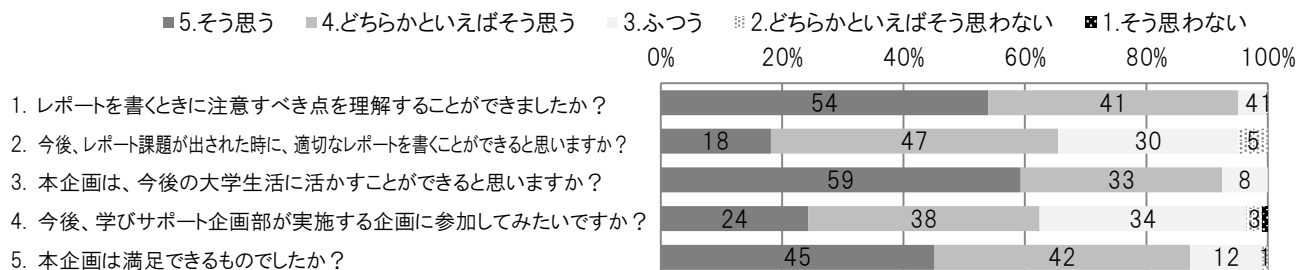


図2 アンケート結果 (N=226)